

ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part II

Japanese Studies

---

---

**J.14 CLASSICAL JAPANESE TEXTS**

*Answer ALL questions.*

*Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** Answer Book.*

**STATIONERY REQUIREMENTS**

*20 Page Answer Book x 1  
Rough Work Pad*

**SPECIAL REQUIREMENTS**

*None*

**You may not start to read the questions  
printed on the subsequent pages of this  
question paper until instructed that you may  
do so by the Invigilator.**

## SECTION A

1 Translate the following passage from an unseen text into **English**, adding notes where you think they are needed: [35 marks]

[12] なりひら、又立かへり通ひ給ふに、母はなをゆるしたまへど、父は更にゆるしたまはねば、なりひら、かの女をかたらひ、ひそかにぬすみ出して、むさし野へおひてにげ給ふが、父きつけて、きびしく追手をかけしかば、草むらの中に立かくれ、ふたりひそかに忍びる給ふ処に、あとよりみちくるおつての者共のいへるは、「此くさむらにや有らんに、いざ火をつけん」といひしかば、女こらへず出て、なく／＼わびてよめる、

▲むさし野はけふはなやきそ若くさのつまも籠れり我も籠れり  
此心は、むさし野はけふはなやきそ、わかきさのつまもこもれり、我も籠れりと也。  
『古今』には春の部に入て、「春日野」とかへて眺望の哥といふ。爰には、くさのつまなどいふにたぐへていふなり。

とよみけるをきゝて、女を取返してともなひいにけり。

[13] そのうちなりひら、京におはします高子の方へ、「かゝる有さまの聞ゆれば恥かし、又我ゆくすゑの聞えねばくるしき」よし、文にかゝせたまひて、上書に「むさしあぶみ」と遊ばしやらせ給ひけるが、そのうち更におとづれもなかりければ、京より、

▲むさしあぶみすがにかけたたのむにはとはぬもつらしとふもうるさし  
此心は、あぶみは両方にかくる物なり、そのせとく心のおほき人なれば、両方へさすがにかけてたのむには、かくとひ給はぬもつらし、又とひ給ふもうるさしと也。なり平の「むさし鑑」と書給ふは、さすがに心にかけてたのむの心。爰は二道にかくるの心なり。と有をみて、なをたえがたき心ちして、返哥に、

▲とへばいふとはねばうらむむさしあぶみかゝるおりにや人はしぬらん  
この心は、かくとへば却而うるさしとの給ふ、又とはねばうらみたまふ、かゝるおりにこそ人はしぬらめ、といふこゝろなり。

## SECTION B

2 Identify passage A and passage B, both taken from seen texts, and comment upon the intertextual mechanisms at play here. Translate passage A into **English**; provide a *kakikudashi* version of passage B and then translate it into **English**. [45 marks]

A

(1) 向相訪賊むかしらふしやくぼうさく

丞相じやうさう向敏中むかしちゆうといへる人。西京さいけいといふ所にありし時。あんぎやの僧あり。道にゆき暮て。一むらありける里にゆきいたり。とある家に一夜をあかさん事をもとめける。あるじ出合いであひて。かなふまじきよしへり。僧のいはく日暮。道しらずして行がたなし。せめて門外かどぐわいに。一夜をあかさせて。たまはれかしなど。わびければ。あるじゆるしてけり。

かゝりける所に。こよひぬす人ありて此家に入。ひとりのをんなにさまゝのさいほうをもたせ。ひそかにかきをこえて。出ゆきけり。

かの僧よもすがら。いねられぬまゝに。たま「三ノ」此事を見出せり。此僧つくくと。あんじけるハ。ゆふべやどもとめしとき。あるじのおしけるを。しるてもとめし事なれば。夜あけなば。かならずわれをたらへ。こよひの盗人なりとうたがひて。とらへて。うきめにあはすべし。さあらはわが身にとがなくて。かへつてとがにしつむべし。せんなきやどかりあはせて。ひはうのしにをせんよりハとおもひ。ひそかに此所を。夜にまきれてにげ出けり。道に草ふかき所をゆきけるが。つおれたるふる井のありけるを。此僧しらずして。ふる井の中へおち入にけり。

かゝりければ。こよひあるじの家より物ぬすみして出たる女。人にこるされたりと見えて「三ノ」そのしがい。僧のおちたる。ふる井の中にもとよりありけり。其上へおち入たる事なれば。僧の衣も血にそみけり。

さて夜あけぬれば。あるじ盗人ぬすびとにあひたりとて。あへてさへき。先あしあとをみるべにやだつねありきしに。たちまちふる井の中に。ゆふべやどかりし僧。ころもなちにそまりて。しんたる女一人と。ありけるを見出せり。則此ぞうをたらへ。奉行所ぶぎやうじよにいたり。事のやうを申。官人くわんにんきゝたまひて。此僧をがうもんせられけり。

もとよりおくびやうなる。ほうしにてやありけん。又いかゞおもひけん。がうもんくるしみにたえかねて申やう。されば此女と。此事をたくみ。ともぬすみ出しけれども。事のもれんことを「三ノ」かへりみて。をんなをころし。ふる井の中へをし入。たちのかんとせしが。此僧もあやまりて。井の中へともにおちたり。女をころせしがたとゞうもつは。井のかたはらにをきしが。何人のきたりてとりたるもしらずと。あるとあらぬ事まで。はくじやうしけり。

まく人みる人。さもありぬべし。此僧のとが。のがるゝ所なしと。人々いひあへり。中にもしやうびんちう。おほしめしけるハ。此ざうもつのゆくへなき事を。ふしんなりとおもひ。僧をめしよせ。たしかにとひきわめ給ふ事。三度四度におよぶ。

(TURN OVER)

B

釋冤

棠陰比事卷上

向相訪賊 錢推求奴

向敏中丞相判西京有僧暮過村舍求宿主人不許求寢於門外車箱中許之是夜有盜入其家携一婦人并囊衣踰墻而出僧不寐適見之自念不為主人所納而強求宿明自必以此事疑我而執詣縣矣因亡去夜走荒草中忽墜智音鴛慶井而踰墻婦人已為人所殺尸在井中血污僧衣主人蹤跡捕獲送官不堪掠音亮治遂自誣云與婦人奸誘以

B continued

俱亡恐敗露因殺之投尸井中不覺失脚亦  
墜於井賊與刀在井傍不知何人持去獄成  
皆以為然敏中獨以賊仗不獲疑之詰溪吉切  
也問數四僧但云前生負此人命無可言者  
固問之乃以實對於是密遣吏訪其賊食於  
村店有嫗木遇切老母也

(TURN OVER

3 Identify and translate into English the following passages from seen texts. Comment on the ideas of translation developed in these passages. [20 marks]

跋

此『業ひらむかし物語』といへるは、さすがに和歌の秘する所の『伊勢物がたり』の面影を、かくいやしきことには述べやばらざる事、空おそろしき事に侍れど、全哥書にはあらず、たゞ児女のもしは草をひろひよみ覚て、むかし／＼かふあつたといへる、むかしがたりにもならむかし。

名にしおほはゞいざこととはん都鳥の、我思ふ事は有やなしやとふ人もなければ、濁りもいさやすみだ川の深き流れのすゑひろき一滴をくみ得て、筆に染め侍りぬ。

延る宝の六つの根も明て離な年  
千々の花咲半の陽注之畢

自序

『昔男時世歌』と題号せば、たゞ当座の風流、浮世双杯の艶説にや紛らはしくあらん。是全く『伊勢物語』の上下の巻、歌、哥と文段を委しく和解してその間に／＼は此比の世事、野風俗なる和したる詞翰をよせて、未熟の初心のまだ甘喰の童女をして仮の道に手引し、つゝゑには又本文、文段の優美なるを独と自得の端にもやと、五つの巻とはいひつくねぬ。しかれば『いせ物がたり』本文をよく讀んじたるは、一段／＼俗言ながらも文段に符合し、その理浅きを得て深きをしるの便ならん。いまだ漸うる冠してならの京と斗をしり、春日の里へ足をふみ入れぬ小娘たちは、右よりの全部をひかへ、此かうしやくを見合せなば、をのづから独とおかしきにつれて、尤なるをも師なふして覚へ給はぬ。下の巻にいたりて、要、文愛かしこを拾心求め、わづかに三つ四つばかりをあげて、いくばくとなく跡にはもらしぬ。猶遅日の眼をたちて、追日全部せしむべきか。何れはげに言葉の爽こそなくとも、笑ひ種のたねとはと、名の桜木にはちりばめぬ。あだなりと見ちらされ、末は芥となるとも、げにやさのみ不足はあらじ。